

地域をつなげる淡路高校の防災教育活動

～語り部活動と防災お菓子ポシェットづくりの実践～

1 防災教育

阪神・淡路大震災の被害を受けた学校として平成11年度から防災科目を開講し、防災・減災について学ぶ「**防災と心のケア**」を学校設定科目として行っている。阪神・淡路大震災や東日本大震災などを中心とした自然災害について、本校の教員による授業をはじめ、さまざまな**外部団体の協力**により、講話・体験学習を行い、地域に貢献するため**防災マップ**の作成や地域での**防災イベント**などに取り組んでいる。阪神・淡路大震災の震源地から最も近い高校として、その経験と教訓を生かし、地域社会と連携して防災教育を継続・発展させていくことが目標である。

防災マスコットキャラクター
『**チンゲンさいくん**』



2 今年度の主な活動 (アクションプランについて)

○語り部活動

毎年、実践している**野島断層記念館**での語り部活動を継続して行いました。今年度は、1回目として7月12日～14日の3日間実施しました。**メモリアルハウス**の中で「防災と心のケア」選択者13名が3カ所に分かれて語り部活動を行いました。初めは緊張してなかなか声をかけられませんでしたでしたが、何回か繰り返すうちに徐々に慣れ、だんだんと積極的に話しかけられるようになりました。**熱心に聴いてくれる方が多く**、逆に質問されることが多く今後の課題となりました。



○防災お菓子ポシェットづくり

兵庫県立こどもの館のふれあい体験ひろば館外事業の一環として、「**一般社団法人おいしい防災塾**」の西谷真弓代表に講話と防災お菓子ポシェットづくりを教えてくださいました。西谷さんの経験談を踏まえながら「**子どもたちに笑顔を**」・「**お菓子で防災**」という意義をわかりやすく説明していただきました。防災お菓子ポシェットの認定校となりましたので、11月5日に「そごう神戸店“ハッピーforKOBE 工作ブース”」の中で、「防災お菓子ポシェット」のブースを出し実践しました。



3 今後の取組

阪神・淡路大震災から20年以上の月日が経過し、私たちは阪神・淡路大震災後に生まれた「震災を知らない世代」です。阪神・淡路大震災を語り継ぐことは、**地域の思いや人々の思いを次世代に語り継ぐ**大切なことであると感じていますので、今後も継続して語り部活動を行っていきます。2回目は12月12日～14日の3日間を予定しています。また、防災お菓子ポシェットづくりも近隣の小学校で実践を計画中です。あわせて本校の防災マスコットキャラクター「**チンゲンさいくん**」の普及活動にも力を入れたいと思っています。